

# 天文教育

2020

9

*Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy*



〈特別記事〉新会長からのメッセージ

〈原著論文〉自宅での望遠鏡を用いた月観察学習の試み ～小 6 理科

「月と太陽」単元への導入とその評価～

〈投稿〉月の満ち欠け早見盤の開発／バングラデシュ北部での天文  
教室報告

## 本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます(共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします)。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト(要旨)には英文も付けてください(英文は審査通過後に追加可)。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1~2ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください(写真のみでも構いません)。
7. **情報コーナー(各種会合・イベントの告知など)**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日(奇数月下旬)にご留意ください。

・**締め切り**：1は随時受け付け、2~7は偶数月(発行の前月)15日です。投稿先は [post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net) です。

・本誌に掲載された記事は、1年後以降に当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開することを予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。

・**広告掲載**を希望される方は事務局 ([jimu@tenkyo.net](mailto:jimu@tenkyo.net)) までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000、半ページ ¥12,000、1/4 ページ ¥7,000、チラシの折り込み ¥20,000 です。

### 【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートが当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：[post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net)

## 表紙の言葉

### はるかなる NEOWISE 彗星

2020年7月16日20時38分、Vixen VSD100+レデューサー(0.79×)f1=300mm(F=3)、Canon EOS5D Mk III、撮影地：石川県輪島市町野町管々木。撮影・解説：大西浩次

今年2020年7月、ネオワイズ彗星(C/2020 F3)が、北半球ではハールボップ彗星以来の大彗星となった。ネオワイズ彗星は、NASAの赤外線観測衛星NEOWISEによって2020年3月27日に発見された。オールトの雲起源の彗星であり、近日点距離が水星の軌道より内側の約0.29 auということもあり、明るくなる可能性はあった。しかし、この頃、大彗星になると期待されていたアトラス彗星(C/2019 Y4)が太陽に近づくにつれて分裂を繰り返し、さらに、肉眼等級になると期待されたスワン彗星(C/2020 F8)も太陽に近づくにつれて崩壊するということがあり、ネオワイズ彗星については大きく報

道されなかった。さて、こんなネオワイズ彗星だが、6月末に太陽観測衛星SOHOのコロナグラフC3に明るく写り始め、近日点通過の7月4日ごろには、夜明けの薄明の中で、0等級の立派な尾をもつ彗星の姿がネット上に報告されるようになってきた。この姿を見たいと空を見上げるも、日本列島は北海道を除いて梅雨の時期、連日、曇りか雨。全国各地で大水害を起こす豪雨も発生していた。天気予報を見ながら、少しでも梅雨前線の北側に抜けようと能登半島の先端へ向かったのが7月16日、まさに撮影地付近のみが晴れていた。迫りくる夕闇の空の中で、キラキラ輝く彗星を発見。薄明の終了とともに海へ沈んでゆく彗星を見ながら、この一期一会の出会いに感謝した。ちなみに、その後も梅雨明けず、多くの人がその立派な姿を見ることなく、彗星は遠くへ行ってしまった。もし、日本列島が「異常気象」でなかったら、多くの人々の記憶に残る大彗星だったに違いない。